

産業廃棄物処理計画書		2022年5月31日
静岡県知事 川勝 平太殿		
提出者		
住所 静岡県榛原郡吉田町大幡350-3		
氏名 日本ハムファクトリー株式会社		
代表取締役 増田 恒政		
電話番号 0548-32-6111		
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。		
事業場の名称	日本ハムファクトリー株式会社 静岡工場	
事業場の所在地	静岡県榛原郡吉田町大幡350-3	
計画期間	2022年4月～2023年3月	
当該事業場において現に行っている事業に関する事項		
① 事業の種類	食料品製造業	
② 事業の規模	製造品出荷額：137億8200万	
③ 従業員数	374名	
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1に示す	

## 産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

## (管理体制図)

総括責任者：静岡工場工場長 小蔦繁  
 処理責任者、技術管理者：技術管理課係長 塚本直樹  
 推進委員：製造係、間接係（全13係）のISO推進責任者  
 処理施設管理部門（汚泥脱水機）：技術管理課技術管理者（増田・塚本）

総括責任者：総括的な把握を行う。  
 処理責任者：各記録をチェックし長期的な処理計画を策定する。  
 技術管理者：施設の技術上の維持管理。  
 処理施設管理部門：発生から処分に至るまでの総括的な把握。  
 処理、収集運搬業者の選定～処理契約の締結。  
 マニフェストの発行及び管理。  
 行政への報告、届出。

## 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（2021年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
別紙2に示す。(上記排出量等も)			

## 産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	<p>(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>工場より発生する廃棄物は計18項目に分別し管理している。</li> <li>引取り業者は再資源化出来る業者を優先的に入れている。</li> <li>有価物で引き取れるものを特定し分別を行い可能な限り有価化。</li> </ul>
②計画	<p>(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>サーマルリサイクルから環境負荷の少ないマテリアルリサイクルへ転換検討。</li> <li>焼却→埋立廃棄物のリサイクル化への転換検討。</li> <li>認定熱回収認定業者への委託量増加及び単純焼却業者から熱回収業者への切替。</li> </ul>

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（2021年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	-	-
	(これまでに実施した取組) 該当なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	-	-
	(今後実施する予定の取組) 該当なし		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（2021年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	有機性汚泥	-
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	-
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	16,285 t	-
(これまでに実施した取組) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 廃水処理場薬品変更による脱水汚泥含水率の低減。</li> <li>・ 製造工程からの汚水量削減。</li> <li>・ 脱水機濾布交換等定期メンテナンスによる脱水汚泥含水率の低減。</li> <li>・ 脱水助剤導入検討による含水率低減。</li> <li>・ ターボブローワー導入によるD0安定化。</li> <li>・ 膜曝気設備導入による汚泥発生量削減。</li> </ul>			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	有機性汚泥	-
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	-
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	16,122.5 t	-
(今後実施する予定の取組) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 廃水処理場薬品変更による脱水汚泥含水率の低減。</li> <li>・ 製造工程からの汚水量削減。</li> <li>・ 脱水機濾布交換等定期メンテナンスによる脱水汚泥含水率の低減。</li> <li>・ 脱水助剤導入検討による含水率低減。</li> <li>・ 脱水機更新検討。</li> </ul>			

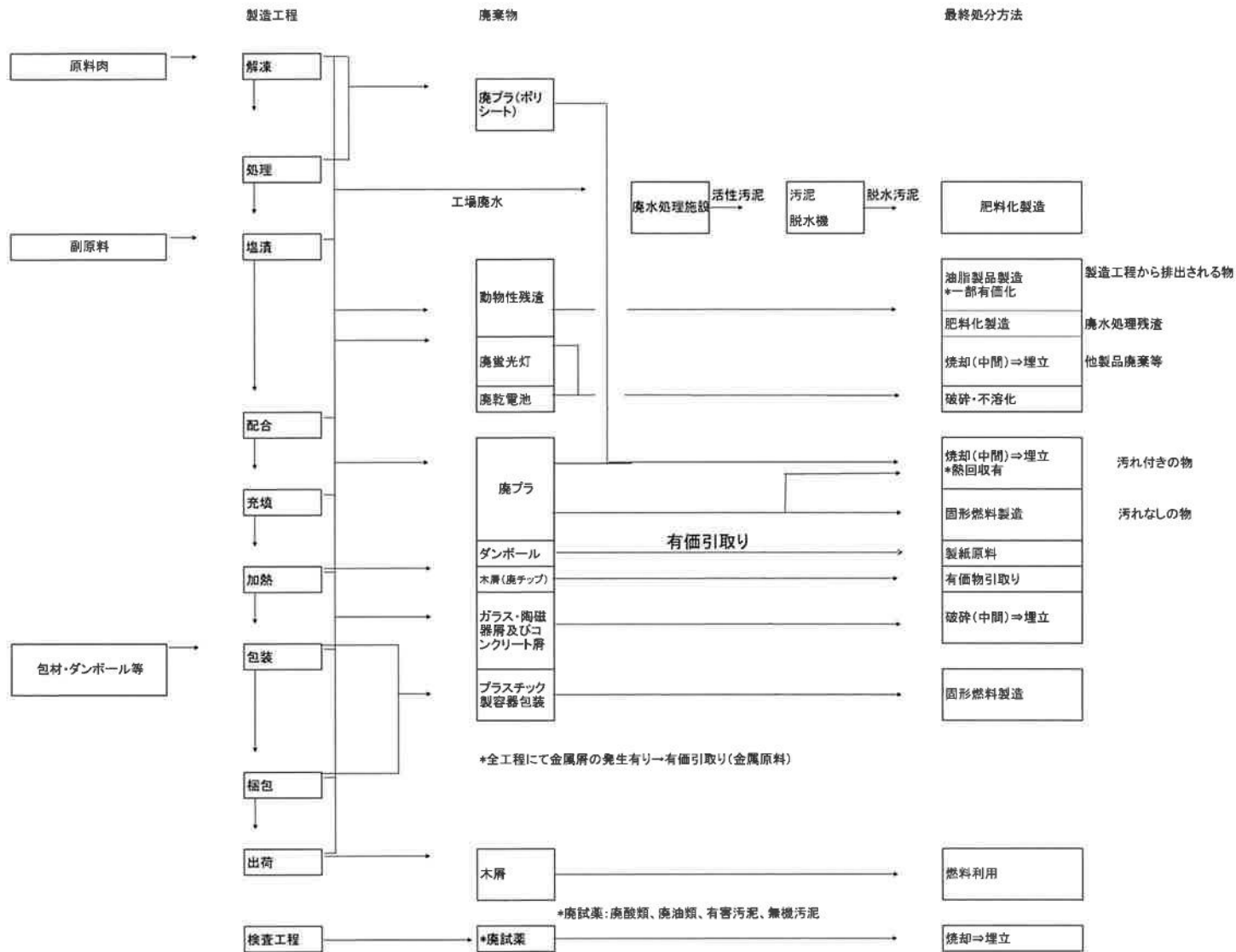
自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（2021年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	-	-
	(これまでに実施した取組) 該当なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	-	-
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	-	-
	(今後実施する予定の取組) 該当なし		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（2021年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	別紙3に示す。	
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
(これまでに実施した取組)			

②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	
	全処理委託量	t
	優良認定処理業者への処理委託量	別紙3に示す。 t
	再生利用業者への処理委託量	t t
	認定熱回収業者への処理委託量	t t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t t
	(今後実施する予定の取組)	
※事務処理欄		

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。  
「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。  
また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

④産業廃棄物の一連の処理の工程・別紙1



他: 工事関連でがれき類・ばいじん・安定型混合廃棄物が排出される。

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項・別組2

産廃の種類	排出量(前年度実績)	これまでに実施した取組み	今期目標	今後実施する予定の取組み
1 有機性汚泥 (コード: 0210000)	17,464.9	・脱水処理施設の運転方法一部変更による余剰汚泥排出削減 ・脱水機整備による脱水汚泥含水率の低減 ・曝露気設備導入による余剰汚泥発生量削減。 ・返送汚泥量増加による汚泥引放量削減 ・ターボブロー導入による水質安定化	17,290.2	・脱水助剤導入検討による脱水汚泥含水率の低減 ・脱水機更新による含水率低減 ・汚泥削減装置導入検討 ・DO管理値見直しによる汚泥削減
2 動・植物性残渣 (コード: 1000000)	465.0	・製造係での歩留り向上、不良率削減(ISO取組み) ・処理工程での有利原料選定による処理歩留り向上 ・分別による一部有価物化 ・可食、非可食部の分別→可食部廃棄削減の取組み実施。	416.5	・製造係での歩留り向上、不良率削減(ISO取組み) ・チャレンジ目標(残渣半減)を掲げた取組みの実施。
3 廃プラスチック類 (コード: 0900000)	241.0	・ISO取組みによる削減 ・プレスコンテナ導入による輸送回数削減(CO2削減)及び水切り ・効率向上対策の実施による重量減	236.6	・ISO取組みによる削減 ・解凍方法見直し検討(含水削減)
4 プラスチック製薬容器包装 (コード: 0040000)	179.8	・包装工程でのフィルムロス削減(ISOの取組み) ・使用資材の薄肉化による廃フィルム重量削減 ・裏面ステッカー廃止によるシール廃棄削減	178.0	・包装工程でのフィルムロス削減(ISOの取組み) ・使用資材の薄肉化による廃フィルム重量削減(3件/年以上実施) ・廃プラ有価化へ向け業者開拓及び破砕機導入検討を行い有価化
5 木屑 (コード: 0900000)	0.3	・廃チップ有価物化	0.3	・備品納品用木枠等の削減
6 石膏ボード (コード: 1322000)	0.1	・工事によりスポット的に発生	0.1	・工事によりスポット的に発生の為コントロール不可
7 安定型混合廃棄物 (コード: 2100000)	6.5	・工事によりスポット的に発生	5.0	・工事時の分別強化→可能な限り有価化(鉄類)
8 蛍光灯 (コード: 2522000)	0.2	・LEDへの変更	0.1	・残り蛍光灯のLEDへの変更
9 植物遺棄 (コード: 0911000)	0.1	・工事によりスポット的に発生	0.1	・工事によりスポット的に発生の為コントロール不可
10 無機性汚泥 (コード: 0220000)	0.02	・検査工程での検査方法工夫による廃試薬削減	0.02	・検査工程での検査方法工夫による廃試薬削減
11 コンクリート屑 (コード: 1321000)	1.3	・工事によりスポット的に発生	1.0	・工事によりスポット的に発生の為コントロール不可
12 ガラス屑 (コード: 1310000)	0.1	・検査工程での検査方法工夫による廃試薬削減(瓶類削減)	0.1	・試薬瓶類可能な限りのリターナブル化
13 グラスワール (コード: 1316000)	0.9	・工事によりスポット的に発生	1.0	・工事によりスポット的に発生の為コントロール不可
14 ばいじん (コード: 1800000)	1.1	・工事によりスポット的に発生	2.0	・工事によりスポット的に発生の為コントロール不可
15 乾電池 (コード: 3520000)	0.5	・特になし	0.5	・特になし
16 廃アルカリ (コード: 0500000)	0.3	・検査工程での検査方法工夫による廃試薬削減	0.3	・検査工程での検査方法工夫による廃試薬削減
合計	18,262.0		16,125.6	

対昨年比 96.8%

対昨年1.2%減を目標とする。



産業廃棄物の処理の委託に関する事項・・・別紙3

産廃の種類	全処理委託量		優良認定処理業者への処理委託量		再生利用業者への処理委託量		認定熱回収業者への処理委託量		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	
	前年度実績	目標	前年度実績	目標	前年度実績	目標	前年度実績	目標	前年度実績	目標
有機性汚泥 (コード:0210000)	1,179.5	1,167.7	16.3	15.0	1,179.5	1,167.7	0.0	0.0	0.0	0.0
動・植物性残渣 (コード:1000000)	465.0	418.5	0.0	0.0	462.5	410.0	0.0	0.0	2.6	3.0
廃プラスチック類 (コード:0800000)	241.0	238.6	173.8	170.0	4.3	5.0	160.4	150.0	89.3	83.6
プラスチック製容器包装 (コード:0804000)	179.8	178.0	179.8	178.0	179.8	178.0	0.0	0.0	0.0	0.0
木屑 (コード:0800000)	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
石膏ボード (コード:1222000)	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
固定型混合廃棄物 (コード:2100000)	6.5	5.0	3.8	3.0	2.6	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0
蛍光灯 (コード:2222000)	0.2	0.1	0.0	0.0	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
雑物類 (コード:0311000)	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1
無機性汚泥 (コード:0220000)	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
コンクリート等 (コード:1221000)	1.3	1.0	1.3	1.0	1.3	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ガラス屑 (コード:1310000)	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
ガラスウール (コード:1316000)	0.9	1.0	0.0	0.0	0.9	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ばいじん (コード:1800000)	1.1	2.0	1.1	2.0	1.1	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
乾電池 (コード:3322000)	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0
廃アルカリ (コード:0500000)	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	2,078.6	2,013.3	377.3	370.3	1,833.3	1,769.1	160.4	150.0	91.9	86.7
対前比		97.0%		98.1%		96.5%		93.5%		94.3%

これまでに実施した取組み	全処理委託量の削減に関する取組みは別紙2記載の通り。優良認定業者への処理委託量については、既存業者への優良認定取得呼びかけ及び優良認定業者への切替検討している。
今後実施予定の取組み	全処理委託量の削減に関する取組みは別紙2記載の通り。優良認定業者への処理委託量については、既存業者への優良認定取得呼びかけ及び優良認定業者への切替検討。